

千の葉の芸術祭 基本計画書 概要版

1.開催する背景と目的

2020年に開催される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会はスポーツの祭典でもあり同時に「文化」の祭典でもある。競技会場都市である千葉市は国内外に日本文化の魅力を発信できる文化プログラムの実施が期待されている。

また、令和3年に市制100周年を迎えるにあたり、これまでの市の成長や歩みを振り返るとともに、その価値を見つめ直し未来に継承させていく取組が求められている。

このような背景のもと、千の葉の芸術祭を通して本市の魅力ある文化力を国内外問わず広く発信することで、市民にも改めて市の魅力を再認識してもらうとともに、文化芸術活動をより日常的な活動へと広げる取組を行うことで市のこれからの文化の発展に寄与することを目的に、芸術祭を開催する。

開催目的 (レガシー)	市制100周年を迎える前に、本市の「自然や歴史に根差した固有の文化力」と「技術の進展によって生まれた新しい文化力」を市民が再認識できる。
	「文化芸術の間口を広く、敷居を無くし、日常的な活動へと広げる取組」の機会を創出する。

2.主催

千の葉の芸術祭実行委員会（構成団体：千葉市、公益財団法人 千葉市文化振興財団、公益財団法人 千葉市教育振興財団、公益社団法人 千葉市観光協会、千葉市文化連盟、千葉市メディア芸術振興事業実行委員会）が主催。

また、実行委員会が総合ディレクター、ディレクター、アートディレクターを選任し、全体のディレクションや専門分野のディレクション等をお願いしている。

千の葉の芸術祭 実行委員会

選任

総合ディレクター	千葉大学 教育学部 芸術学研究室 准教授 神野真吾
ディレクター	日本写真史研究家 栗生田 弓
アート ディレクター	グラフィックデザイナー おおうち おさむ

3.芸術祭の概要

写真芸術展	第一線で活躍するアーティストが、市の資源（地域資源や人的資源など）を被写体に、メッセージ性の高い写真作品を制作し展示することで、観た人に多様な資源を持つ市の魅力を広く発信する。
体験・創造 ワークショップ	本市で実施してきた体験・創造ワークショップ「ななめな学校」を小学生のみならず大人の方も対象に開催する。
伝統文化と 新しい文化の発信	日本庭園「見浜園」で、市民のみならず訪日外国人も含めた本市への来訪者の方々を対象に伝統文化と新しい文化を発信する。

4.開催期間と概要

令和2年1月と2月に「千の葉の芸術祭プレイベント」を開催し、令和2年4月中旬から9月13日（日）までを、「千の葉の芸術祭本イベント期間」とする。

芸術祭 プレイベント	ななめな学校4	開催日：令和2年1月11日（土）、12日（日） 場所：千葉市生涯学習センター 概要：1日限りのワークショップ。子供5講座、大人1講座開催。 ※詳細は別添「ななめな学校4」チラシを参照のこと。
	ななめな学校 METACITY関連ワーク ショップ	開催日：令和2年2月23日（日） 場所：幕張メッセ 概要：幕張メッセで始まったリサーチプロジェクト「METACITY」と連携した、1日限りのワークショップ。1講座開催。
芸術祭 本イベント	ななめな学校 連続ワークショップ シリーズ	開催日：令和2年5月中旬から順次開催（4月中旬から募集開始） 場所：千葉市生涯学習センター 概要：こども向けと大人向け合わせて4講座開催予定（1講座につき4～5回連続して開催）。令和2年8月から9月の芸術祭期間中に作品を公開する。
	伝統文化と 新しい文化の発信	場所：日本庭園「見浜園」（幕張海浜公園） ・ 伝統文化の発信 開催日：令和2年8月1日（土）～2日（日） 10時～15時 予定 概要：本市ならではの伝統文化を担う千葉市文化連盟による伝統芸能の体験会や鑑賞会を開催する。 ・ 新しい文化の発信 開催日：令和2年7月26日（日）～8月9日（日） 18時～22時 予定 概要：幕張メッセで始まったリサーチプロジェクト「METACITY」と連携して光を使ったインスタレーションや回遊式のエキシビションなど展開する。
	写真芸術展	開催日：令和2年8月22日（土）～9月13日（日） 概要：文化施設等を会場に、第一線で活躍するアーティストによる写真作品を展示する。それぞれの会場で展示される作品のメッセージが観た人に伝わりやすいよう、展示空間を効果的に演出する。 会場：【中央区エリア】千葉市美術館、千葉市生涯学習センター、千葉公園（好日亭、蓮華亭） 【稲毛区エリア】千葉市民ギャラリー・いなげ、旧神谷伝兵衛稲毛別荘、千葉市ゆかりの家・いなげ

5.市内の企画イベントとの連携

会期中に開催される千葉市文化振興財団（「ベイサイドジャズ 2020 千葉」デモンストレーションなど）や千葉市美術館（「ジャポニスムー世界を魅了した浮世絵」展）の主催する企画やイベントを文化プログラムとして推進し、千の葉の芸術祭と広報等での連携を図る。

6.広報について

訪日外国人もターゲットに、幕張メッセ周辺の宿泊施設等に積極的な広報展開を図る。

公式ホームページ開設や SNS の活用、無料ガイドブックの配布などを実施する。

また、市の資源の発信を目的に、海浜幕張近辺を運行するバスや千葉都市モノレール車両に、美術館が世界に誇る浮世絵コレクションをデザインしたラッピングを行う。

7.観覧料等について

①写真芸術展：観覧料無料

②ワークショップ：事前申し込みの上、参加費を徴収

③伝統文化と新しい文化の発信：見浜園の庭園観覧及び屋外展示作品の観覧料無料。（通常かかる入園料は発生しない）ただし体験イベントは参加費を徴収予定。

8.輸送交通について

市内外からの来場者が、円滑に各会場までアクセスできるよう、無料ガイドブックや公式ホームページなどで適切な情報発信を図る。

9.運営支援・市民参加

市民の皆様へボランティアとしての参加を呼びかけ、主体的な活躍を期待するとともに、千葉市観光協会と連携し、登録観光ボランティアの活躍の場も設ける。

また、個人や市内で活躍される企業を中心に協賛等の協力依頼を検討する。

10.実施計画書の公表

令和2年4月以降に、「千の葉の芸術祭 基本計画書」を基に、千の葉の芸術祭のより具体的な実施内容を記載した「千の葉の芸術祭 実施計画書」を公表予定。